

# 伊丹福音ルーテル教会 全聖徒主日礼拝のしおり

## 2021年11月7日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 24 編 1-6 節

【ダビデの詩。賛歌。】地とそこに満ちるもの 世界とそこに住むものは、主のもの。  
主は、大海の上に地の基を置き 潮の流れの上に世界を築かれた。  
どのような人が、主の山に上り 聖所に立つことができるのか。  
それは、潔白な手と清い心をもつ人。むなししいものに魂を奪われることなく  
欺くものによって誓うことをしない人。  
主はそのような人を祝福し 救いの神は恵みをお与えになる。  
それは主を求め人 ヤコブの神よ、御顔を尋ね求める人。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて一週間を始めます。信仰によって先に御国に召された先輩方を思い起こします。あなたは確かな約束をもって私たちに慰めと希望を与えてくださいます。あなたは私たちの心から冷たい石のような不信仰を取り除いてくださり、あたたかいいぶきを与えてくださいます。ここから私たちの新しい一週の歩みが始まります。

あなたは御言葉を聞く私たちをここから生活の場に送り出してくださいますが、あなたはまた生活の現場にも来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそ、あなたに導きを受け、あらゆる災いから守られ、更に隣人の力になれるように鍛えていただきます。新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ヨハネの黙示録 21 章 1-6a 節

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなつた。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。」

## 福音書朗読：ヨハネによる福音書 11 章 32-44 節

マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、

「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどこいてやって、行かせなさい」と言われた。

### 讚美歌 312 番

1. いつくしみ深き 友なるイエスは、罪、とが、憂いを 取り去りたもう  
こころの嘆きを 包まず述べて などかは下ろさぬ、負える重荷を
2. いつくしみ深き 友なるイエスは、われらの弱きを 知れて憐れむ  
悩み、悲しみに 沈めるときも、祈りにこたえて 慰めたまわん
3. いつくしみ深き 友なるイエスは、かわらぬ愛もて 導きたもう  
世の友 われらを 棄て去るときも 祈りにこたえて 労わりたまわん **アーメン**

### 説教：「イエスは涙を流された」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

死んだはずのラザロがよみがえった、生き返った、墓から自分で出てきた、ということは信じられないことですね。それはそれを目撃し、体験した人々にとっても同じように驚いたことでした。この出来事を見た人々は、イエス様が神の御子であることを信じました。そしてそのように多くの人々がイエス様を信じていくことに危機感をもったイスラエルの指導者たちは、すぐに国会を召集して対策を練りました。つまりイエス様を逮捕することです。そこまで人々が動いたということは、ラザロが事実よみがえったということですね。

なぜ指導者はイエス様を逮捕して、そのあと十字架につけなければならなかったのでしょうか。当時ローマ帝国の支配下の、いわば属国になっていることで、イスラエルの人々は救い主を待っていました。救い主が来たらイスラエルの人々を解放してくれると期待していました。そこにイエス様が登場し、奇跡をもってご自分が救い主であることを示されたのです。多くの人々がイエス様を信じました。しかし指導者たちはイエス様を信じませんでした。それで、そのような謀反の運動をローマ帝国の人々が知れば必ずイスラエルを滅ぼしに来るだろう、と考えました。今のうちにイエス様を逮捕してしまおう、と考えたのです。

イエス様がラザロをほんとうによみがえらせていなかったら、イエス様のことで国会まで開かれなかったことでしょう。私たちにも信じがたいことですが、事実イエス様はラザロをよみがえらせられました。

イエス様が愛するラザロをよみがえらせたのには理由がありました。それはご自分がまことの救い主であることを、ラザロの兄弟であるマルタやマリヤの姉妹たち、そしてそこにいる人々が信じることができるためでした。14節、15節でイエス様は「ラザロは死んだのだ、わたしがその場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなた方が信じるようになるためである」とおっしゃっています。ラザロが病気であることを聞いていたイエス様が、ラザロが死んで墓に葬られてからすでに四日も経ってしまったからそのお墓に到着されたのには、ご計画があったのですね。

イエス様を迎えた人々は悲しみに暮れていました。マルタは出迎えて、「もう少し早く来てくださったいたらラザロは死ぬことはなかったでしょう」と言いました。家に入ってマリヤが迎えると、マリヤも「もしここにいてくださったいたらラザロは死ななかったでしょう」と言いました。二人ともイエス様は病気をいやすことができる方だと信じていましたが、まさか死んでしまったラザロを、それも四日たっていて、間違いなく死んでいる兄弟をよみがえらせることができるなどとは全く期待すらしておらず、まだ悲しみのあまり泣き続けていました。

イエス様はそこで涙を流されました。人々は悲しみと寂しさで、抑えきれない思いがこみ上げて泣いていました。イエス様も同じ涙を流されました。人々はそれを見てイエス様がラザロをたいへん大切に思っておられたのだと感じました。そうです。イエス様はラザロをたいへん大事な人として愛しておられました。しかし、イエス様は死別の悲しみに共感されただけではなく、人が死によってこれほどに悲しみを経験しなければならないことに対して憤りを感じておられました。

イエス様が救い主として来てくださったのは、一時的なローマ帝国からの解放を成し遂げるため、ということではありませんでした。人々の死を滅ぼし、永遠のいのちをあたえる救い主として来てくださいました。ラザロのお話の前、イエス様はご自分はまことの羊飼いとて来られた、とたとえておられますが、そのときにこう言われています。「わたしが来たのは羊がいのちを受けるため、しかも豊かに受けるためである。」私たちがいのちを豊かに受けるために、それを実現する救い主として来てくださったということですね。さらに「わたしはよい羊飼いです。よい羊飼いは羊のために命を捨てる」と続けられ、イエス様がとらえられて十字架につけられることは、イエス様の挫折や敗北ではなく、そのことを通して羊がいのちを豊かにえるために、私たちのために命を与えてくださったことがわかります。

イエス様の涙と憤りは、救い主としてのイエス様の御心でした。そのあとイエス様はお墓に行きました。洞穴のような構造でその中になきながら横たえられています。そして入口のところ

は石でふさいでいました。イエス様は「この石を取り除けなさい」と言われると、マルタが「もうお亡くなりになってしまっています。四日もたってます」と言いました。いろいろな油で遺体を洗い、香料をつけて丁寧に葬っているのですが、さすがにもう四日経っていますから開けるとおどろくは当然です、と言ったのです。イエス様が石と言われたのは、もちろん墓のふたとなっている石のことを指しましたが、同時に、人々の不信仰のことを指しておられました。もし信じるなら、神の栄光が見られるとっておいたのではないかと促されたイエス様のお言葉を聞いて、人々は石をとり除けました。イエス様はそこにいた群衆が、イエス様が神様から遣わされた救い主であることを信じるができるために、と言われて、墓の中の方に向かって大声をあげて「ラザロ、出てきなさい」と命じられました。そうするとラザロが四日前に葬られたままの姿で布で包まれて墓から歩いて出てきました。驚いている人々にイエス様は、さあ、ほめてやって、行かせてあげなさい、と言われました。

今日は全聖徒の日です。イエス様にあつて先に天国に召された方々を覚えています。神様が与えくださったいのちを、りっぱに歩まれた先輩の方々を覚えています。神様は私たちに出会いを与えてくださっていました。生前、私たちはお世話になりました。ともに過ごしました。一緒に人生のあるときを過ごしました。十分感謝をお伝え出来なかったかもしれません。お別れしたあとの寂しさを思い出して、まだ苦しんでいるかもしれません。しかし、私たちは寂しさの中にも喜びをいただいています。おひとりひとりにイエス様にご自分でいのちを与えてくださったので、おひとりひとりが永遠のいのちを得られるからです。そして私たちも同じ信仰にあるなら、やがて御国において大切な先輩の方々と再会が約束されています。

聖書は、人類の罪によって死がはいつてきたと教えています。その罪をイエス様にご自分のいのちをかけて裁かれました。神様から離れて死を迎えるなら、神様の赦しのないままきよい神様の前に立ち神様の裁きを受けることとなります。しかしその裁きをイエス様が救い主として担ってくださいました。ですからそのイエス様の約束に信頼して洗礼にあずかったものは、やがてきよい神様のまえで「我が子よ」と呼んでいただけるばかりか、いま、世にあつて歩む間もすでに神様の子どもとして愛されて、あたらしいいのちを生きるようにしていただいています。

あ

このときよみがえりのいのちをいただいたラザロも、やがて寿命がきて死んだでしょう。そして私たちにもやがて死のときがくるでしょう。それでもイエス様の十字架の死とご復活を私の救いのためであったと信じる信仰が与えられて歩む私たちには、この世のいのちがおわっても永遠の住まいに導かれる安らかな死を迎えることとなります。そしてその確信に押し出されて、今いただきたいいのちを、自分中心でわがままを貫くためではなく、神様に感謝し、人々の役に立つ生きがいをもって、持ち場が与えられ、互いに励ましあいながら歩むのです。

もしかしたら私たちは思い出したくない過去や、認めたくない傷ついた経験があるかもしれません。なぜそのとき、イエス様が助けてくださらなかったのだろう、もう手遅れだ、仕方ない

とあきらめている過去です。しかし多くの場合そのような記憶が私たちが深いところで支配して、私たちの元気を奪い、私たちに縛っています。

私たちは自分の心にもそのように葬ってしまいたい部分があることに悩みます。それに蓋をして生きています。しかし、そのような私たちの苦しみや悲しみを受け止め、共感して下さって涙をながして下さるイエス様がいらっしやいます。さらにイエス様は救い主として希望を与えてくださいます。

もう四日もたっています、という声にもかかわらず、イエス様はラザロに向かって、出てきなさい、と言われました。私たちはいやな思い出を思い出さないようにして、記憶によみがえらないように、起こさないように生きていますが、私たちも不信仰な石を取り除けましょう。イエス様は私たちをよみがえらされたラザロとともに、縛っていた布をほどいて残る生涯を歩むことができるように癒してください。ラザロの死んだあとで四日もたってイエス様は来てくださいました。それはマリヤやマルタ、取り巻く多くの方々が信じていることができたためでした。私たちもイエス様を信じている信仰によって葬っていた過去を石をのけて受け止めたおすことができれば幸いですね。そして、そのことゆえに神様が教えてくださった深いご配慮に気づき、そしてそのことを経験した自分に特別に託されている使命をあらたに覚えます。死に縛られていたあきらめから自由にされて、むしろ感謝をもって恐れることなく、迷うことのないいのちを生きるのです。

イエス様は救い主として来てくださいました。確かに、当時のイスラエルの人々のように他の国の支配下で服従して生きる不自由ははやく解消したい苦しみです。しかし、イエス様は永遠のいのちを与える救い主として来てくださいました。イエス様の救いは、私たちの罪を赦して下さること、神様の子どもとしてあたらしい命をあたえて下さることです。先にこの約束を信じて主のもとに召された先輩方をしのび、私たちもイエス様を救い主として、主として、信頼して歩んでまいりましょう。そして私たち自身の心にある暗闇の死を、不信仰の石をとりかけてイエス様にいのちあるものとしていただき、苦しみにあったことを受け入れ、その縛りから自由になって、それゆえにこそ私がいただいた感謝や祝福を覚えつつ、使命に生きることができるよう、互いに祈りあい、支えあって歩んでまいりましょう。

イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。  
ヨハネ 11:40

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

### **讚美歌 354 番 献金 献金感謝の祈り**

1. 飼い主 わが主よ、迷う我らを 若草の野べに 導きたまえ

我らを守りて 養いたまえ、我らは主のもの、主に贖わる

**2. 良き友となりて 常にみちびき、迷わばたずねて ひき返りませ**

**我らの祈りを 受入れたまえ、我らは主のもの、ただ主に頼る**

**3. 赦しのみちかい、救いのめぐみ、きよむる力は 皆 主にぞ ある**

我らをあがない 生命をたまう、我らは主のもの、主に在りて生く

**4. み慈しみをば 我らに満たし、今より みむねを なさしめたまえ**

**我らをあわれむ み恵み深し、我らは主のもの、主をのみ愛す アーメン**

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**頌栄：讃美歌 543 番**

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**